

第 60 回 JIA アーバントリップ見学会の報告

実施日 : 2009 年 6 月 1 日(月)

テーマ : 「文化を発信する個性的なホールを訪ねて」

見学先 1. 「座・高円寺(杉並芸術会館)」

特別講師:青島 琢治氏 (伊東豊雄建築設計事務所)

福地 智子氏 (永田音響設計)

2. 「武蔵野市立吉祥寺シアター」

特別講師:伊東 正示氏 (シアターワークショップ)

3. 「日経ホール(日本経済新聞社新屋内)」

特別講師:村尾 忠彦氏 (日建設計)

第 60 回コーディネーター 尾形 光男 (日本設計)

「座・高円寺」



1階メインロビー



2階カフェ



座・高円寺2

「武蔵野市立吉祥寺シアター」



2階都市回廊



劇場



劇場

「日経ホール(日本経済新聞社新屋内)」



4階ホワイエ



日経ホール



日経ホール

見学後記

都心にいくつかの個性的なホールが完成しました。使われ方やそこで行われる演目により、さまざまなホールのあり方があります。今回は最近竣工した個性的なホールを見学し、設計者と共にホール設計に大切な存在である劇場・音響コンサルも交え、そこで建築家が考えてきたことや、建築家とのやり取りや、施設の考え方などをお聞きしたいと考えました。

当日は出発の予定を少し過ぎましたが、予定通りに「座・高円寺」に到着しました。ここには3つ

のホールがあります。座・高円寺1は専門性の高い小劇場であり、さまざまな舞台形式に対応できる正方形のホールです。座・高円寺2は貸し事業を主としたエンド形式のホールで、使いやすい区民ホールとしています。3つ目は阿波おどりの練習を主目的とし阿波おどりホールです。これらの3つのホールが一つのテントに覆われたテント小屋をイメージして創られています。このテントは鋼板コンクリートで構成されており、外皮の対する強い試みが感じられた作品でした。

午後は「武蔵野市立吉祥寺シアター」を訪れました。ここも小劇場ですが、芝居小屋のイメージが強く感じられた個性的なホールです。ここではシアターワークショップの伊東さんの強い思い入れが感じられました。また、このホールに付随するシアターカフェというカフェがありシアターワークショップが経営しているとの事でもそれを感じました。

最後は日本経済新聞社新屋内にある日経ホールを見学しました。ここは最初の2つとはイメージが大きく違う、大手町にある多目的ホールです。ここは講演会を中心にして室内楽も可能なホールです。木の円柱を使用したホール壁面は吸音も意識しながら、森の木立をイメージした揺らぎ照明はとても興味深かったです。このように、今回のアーバントリップは考え方の異なる3つのホールを見学し、とても良い参考になったのではないかと考えています。

記：第60回アーバントリップコーディネーター 尾形 光男（日本設計）